

第10回千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議 専門部会 概要

1 日時 令和2年9月15日（火）18:00～19:55

2 場所 千葉県庁本庁舎5階 特別会議室

3 委員（敬称略・外部委員につき五十音順）

猪狩 英俊	千葉大学医学部附属病院 感染制御部長
入江 康文	公益社団法人千葉県医師会 会長
亀田 信介	一般社団法人日本病院会千葉県支部 支部長
織田 鍊太郎	東京ベイ・浦安市川医療センター 感染症内科 医長
小森 功夫	松戸市立総合医療センター 副院長
角南 勝介	成田赤十字病院 病院長
寺口 恵子	公益社団法人千葉県看護協会 会長
中村 朗	総合病院国保旭中央病院 化学療法科 院長補佐
西牟田 敏之	公益社団法人千葉県医師会 公衆衛生担当理事
馳 亮太	成田赤十字病院 感染症科部長
宮崎 勝	国際医療福祉大学成田病院 病院長
山本 修一	千葉大学 副学長
石川 秀一郎	千葉県衛生研究所 所長
杉戸 一寿	千葉県保健所長会 会長
山崎 晋一郎	千葉県病院局長

4 関係機関等

山口 淳一	千葉市保健福祉局 次長
舘岡 恭子	千葉市保健福祉局 医療政策課 担当課長
松野 朝之	船橋市保健所 次長
戸来 小太郎	柏市保健所 保健予防課 課長
広木 修一	柏市保健所 保健予防課 専門監

松本 尚	千葉県災害医療コーディネーター
吉村 健佑	千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター センター長

5 県側出席者

加瀬 博夫	健康福祉部長
渡辺 真俊	保健医療担当部長
中村 勝浩	健康福祉部 次長
石出 広	健康福祉部 次長
久保 秀一	健康危機対策監
井上 容子	健康福祉政策課長
横田 裕之	健康福祉政策課 副参事
舘岡 聰	疾病対策課長
田村 圭	医療整備課長
菅沢 淳一	衛生指導課長

6 議題に係る主な意見等

○病床確保計画におけるフェーズの移行について

- ・千葉医療圏においては、直近の数字で出ている感染状況よりも、病床がひっ迫している印象がある。
- ・最近の感染状況を見ても、千葉市は上昇しており、懸念される。
- ・令和2年9月10日に開催された「千葉県新型コロナウイルス感染症対策本部会議」の資料では、千葉医療圏のフェーズの引下げを9月17日頃としているが、延期した方がよいのではないか。
- ・東葛飾地域は定期的に患者がいて、最近は中高年も多い。幸い重症者は少ないが、フェーズを引き下げのような段階にはないと思われる。

○次のインフルエンザ流行に備えた体制整備について

- ・冬季のインフルエンザ患者を地区で診察していくにあたり、検査に協力してくれる医療機関を増やしたい。今までインフルエンザ患者を診察していた医療機関に、そのまま診てもらうことが重要。
- ・患者が急に来診した際には対応できないので、事前に電話連絡をしてほしい。
- ・診療・検査医療機関等の情報の公開は、慎重に行う必要がある。
- ・公開した医療機関に患者が殺到するという意見はあるが、時間差や予約制などを踏まえ、公表していくことが本来ではないか。患者にとっては、よりメリットがあるのではないか。
- ・国の通知では、発熱患者は、まず、かかりつけ医等へ相談することとされているが、かかりつけ医で診察等ができない場合に、3月は全て保健所へ相談がいていたと思う。
- ・そもそも発熱患者は風邪ですらない場合もある。そうした方全員が受診拒否されることはあってはならないので、一旦、かかりつけ医に話を聞いてもらうような体制にし、その後、どこを經由して検査医療機関につなぐかを決めていくことが大切であると思う。
- ・休日、夜間の相談体制についても、検討しておくことが必要であると思う。

医療機関が少ない地域では、特定の医療機関に患者が殺到してしまうことが予想される。夜間の相談体制のためだけに職員を配置することは難しい。また、患者が殺到してしまうと、救急の現場でコンタミネーションが起こる可能性もある。